

令和7年度寄附講座活動実績報告書

寄附講座名：生活期リハビリテーション医学・医療推進学講座

所 属 長：三上靖夫

1 寄附講座の目的

地域包括ケアシステムにおいて、リハビリテーション医学に基づいた生活期のリハビリテーション医学・医療を効果的に推進していくための研究を目的とする。

2 報告年度に係る取組状況

本寄附講座では、地域包括ケアシステムにおける生活期リハビリテーション医学・医療の質の向上と体系化を目的として、研究・教育・社会実装の各側面から多面的な取組を推進した。

研究面では、生活期リハビリテーションにおける介入手法の標準化を目指し、デルファイ法を用いたコンセンサス研究をはじめ、地域在住高齢者の身体活動と健康指標との関連、脳卒中後サルコペニアや栄養状態、関節リウマチ患者に対する電気刺激療法など、多様な臨床課題に対する研究を実施した。特に、京丹後長寿コホート研究を基盤とした身体活動研究は、生活期における健康寿命延伸の科学的基盤の構築に寄与するものである。また、長期介護領域におけるリハビリテーションの実態把握や標準化に関する調査研究にも取り組み、制度的課題への知見を蓄積した。

教育・学術活動としては、著書および総説の執筆を通じて、地域包括ケアシステムや電気刺激療法などの知識体系の整理・発信を行った。さらに、多数の学会発表（シンポジウム・一般口演）を国内外で行い、生活期リハビリテーションに関する最新の知見を広く共有した。特に、第62回日本リハビリテーション医学会学術集会においては、多職種連携、電気刺激療法、地域包括ケア、障がい者スポーツなど、生活期医療の多面的課題を取り上げたシンポジウムを企画・発信し、本分野の発展に貢献した。

社会実装および地域連携の面では、高齢者の生活を支えるリハビリテーション医療と介護の連携をテーマとした講演活動を行い、地域医療従事者への知識普及に努めた。また、京都リハビリテーション医療・介護フォーラムの主催を通じて、医療・介護・行政の連携強化を図り、地域における実践的課題の共有と解決に向けた議論の場

を提供した。

以上のように、本年度は、生活期リハビリテーション医学・医療の体系化と実装を目指し、基礎的研究から臨床応用、地域連携に至るまで一貫した取組を展開し、本講座の目的達成に向けた着実な成果を挙げた。

3 報告年度における著書、論文、学会発表、講演、研究助成等の実績

著書

- ① 三上靖夫, 沢田光思郎. I リハビリテーション医学・医療総論 7. 介護領域と地域包括ケアシステム 認知症のリハビリテーション医学・医療テキスト P 52-54 医学書院 2025.10.15

原著論文

- ① Shiota S, Yoshikawa K, Asaeda M, Hirata K, Abo M, Otaka Y, Mikami Y, Nishimura Y, Sasaki N, Momosaki R, Niimi M, Kinoshita S, Hada T, Kawasaki T, Nishiyama K, Nakayama Y, Shimizu M, Kitamura S, Mikami Y. Establishing Standard Categories of Rehabilitation Approaches in Long-term Care: A Delphi Consensus Study. *Prog Rehabil Med* 10, 20250016: 2025.6.25
- ② Hishikawa N, Toyama S, Sawada K, Kubo M, Ohashi S, Mikami Y. Therapeutic Electrical Stimulation Using Belt Electrodes and Nutritional Management in a Patient With Rheumatoid Arthritis and Sarcopenia: A Case Report. *Cureus* 17, e88125. 2025.7.16
- ③ 藤原颯太, 横関恵美, 奥田求己, 久保秀一, 沢田光思郎, 近藤正樹, 三上靖夫 下肢の視床痛に対して能動的な感覚識別訓練が有効であった脳卒中の1症例. *総合リハ.* 53, 834-837: 2025.8.10
- ④ Sakurai M, Hishikawa N, Sawada K, Ohashi S, Maeda H, Mikami Y. Association between nutritional status and food texture levels in older patients with stroke-related sarcopenia in the subacute phase: a retrospective cross-sectional study. *Front Nutr* 12, 1674577: 2025.10.3
- ⑤ Kubo M, Hishikawa N, Shinjo H, Ohashi S, Sawada K, Matoba S, Mikami Y. Physical activity associations with physical function and body composition among community-dwelling older adults in Japan: The Kyotango Longevity Cohort Study. *Geriatr Gerontol Int*, 25, 1511-1517: 2025.11.25
- ⑥ 山中 彩, 菱川法和, 垣田真里, 中西雄紀, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 三上靖夫. ベルト電極式骨格筋電気刺激と非麻痺側の片側上肢エルゴメータを併用した脳血管障害後片麻痺の2例. *日生活電気刺激研究会誌*, 38, 23-28: 2025.12.29
- ⑦ Asaeda M, Mikami Y, Nishimura Y, Shimokawa T, Shinohara H, Kawasaki T, Kouda K, Ogawa T, Okawa H, Uenishi H, Kuroda R, Mikami Y, Tajima F, Kubo T. A cross-sectional survey of consistent rehabilitation through long-term care insurance in Japan: a questionnaire survey. *Ann Med Surg (Lond)*, 85, 17-23: 2023.

総説

- ① 菱川法和, 沢田光思郎, 前田博士, 三上靖夫. 【脳卒中後上肢麻痺に対するリハビリテーション治療の理論と実践】神経筋電気刺激. MED REHABIL, 319, 31-363: 2025.

学会発表

シンポジウム

- ① 新庄浩成, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 久保元則, 菱川法和, 三上靖夫. 京丹後の高齢者の24時間動作行動から見てきた長寿の秘訣. シンポジウム 新たなるアプローチ: 高齢者の健康寿命を考える. 第43回日本臨床運動療学会学術集会, 京都. 2024. 9. 14.
- ② 新庄浩成, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 菱川法和, 久保元則, 三上靖夫. 京丹後の高齢者の24時間動作行動から見た長寿の要因. シンポジウム 京都府が誇る百寿者の町「京丹後市」での研究最前線1. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都. 2025. 6. 12
- ③ 前田博士, 大橋鈴世, 菱川法和, 沢田光思郎, 櫻井桃子, 三上靖夫. 随意運動介助電気刺激療法の進歩. シンポジウム 電気刺激療法の進歩. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ④ 白石裕一, 野村哲矢, 栗本律子, 臼井弘, 西 真宏, 的場聖明, 三上靖夫. 心不全患者の遠隔モニタリングの有用性の検証. シンポジウム 心不全のリハビリテーション治療について多面から考える. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑤ 前田博士, 大橋鈴世, 菱川法和, 沢田光思郎, 櫻井桃子, 三上靖夫. 随意運動介助電気刺激療法の進歩ー装着型随意運動介助電気刺激療法を中心にー. シンポジウム 電気刺激療法の進歩. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑥ 紙谷 武, 永廣信治, 三上靖夫, 宮崎誠司, 井汲 彰. 柔道を活用した転倒予防. シンポジウム 柔道とリハビリテーション医学・医療との接点. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑦ 遠山将吾, 菱川法和, 三上靖夫. 関節リウマチにおけるサルコペニア/フレイル治療と身体活動. シンポジウム 関節リウマチに対するリハビリテーション治療update. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 14
- ⑧ 本田壮一, 佐田政隆, 三上靖夫, 永廣信治. 「自他共栄」を願う地域包括ケア・災害不安・人手不足の小病院では. シンポジウム 高齢化が進む地域で必要とされるリハビリテーション医療. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 14
- ⑨ 新井祐志, 中川周士, 徳永大作, 三上靖夫. 京都スポーツ・障がい者スポーツ推進協会による活動ー地域からパラスポーツを支えるー. シンポジウム 障がい者スポーツを支える地域・競技団体. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 14

一般口演

- ① 久保元則, 菱川法和, 新庄浩成, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 三上靖夫. 地域在住高齢者のサルコペニア肥満の特徴. 第1回日本生活期リハビリテーション医学会学術集会, 東京都, 2025. 2. 1
- ② 中西雄紀, 櫻井桃子, 菱川法和, 梶 健太郎, 西尾大智, 加古山 悟, 小松佳明, 沢田光思郎, 前田博士, 三上靖夫. 回復期リハビリテーション病棟における姿勢変換型車いすの使用に関する調査ー治療機器としての可能性ー. 回復期リハビリテーション病棟協会第45回研究大会 in 札幌, 札幌, 2025. 2. 22

- ③ 山中 彩, 菱川法和, 垣田真里, 中西雄紀, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 三上靖夫. ベルト電極式骨格筋電気刺激と非麻痺側の片側上肢エルゴメータを併用した脳血管障害後片麻痺の2例. 第51回日本生体電気・物理刺激研究会, 京都, 2025. 3. 8
- ④ 前田博士, 菱川法和, 沢田光思郎, 大橋鈴世, 三上靖夫. 亜急性期脳卒中患者の重度上肢麻痺に対して随意運動介助型電気刺激装置を用いた一例. 第51回日本生体電気・物理刺激研究会, 京都, 2025. 3. 8
- ⑤ 陣林秀紀, 坂井宏旭, 前田 健, 菊池尚久, 坂根正孝, 鈴木晋介, 時岡孝光, 中川幸洋, 古澤一成, 三上靖夫, 須田浩太. 三次医療圏における外傷性脊髄損傷発生状況一脊損予防委員会全国調査結果を踏まえて一. 第98回日本整形外科学会学術総会, 千代田区, 2025. 5. 24
- ⑥ 堀井基行, 兼松まどか, 浅田麻樹, 小山 瞳, 露口優美, 沢田光思郎, 三上靖夫. 高齢者の独居生活にはどの程度のFIMが必要か: 大腿骨近位部骨折術後患者7年間の調査から. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 12
- ⑦ 栗林健一, 西郊靖子, 垣田真里, 澤田恒平, 岩本一秀, 三上靖夫. 大腿骨近位端骨折術後患者の上肢機能評価も含めた在宅復帰困難者の評価分析. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 12
- ⑧ 小山 瞳, 堀井基行, 横山雅人, 浅田麻樹, 梶健太郎, 沢田光思郎, 三上靖夫. 大腿骨近位部骨折術後患者は自宅生活にどの程度復帰できたか: 2016年から2022年の7年間の調査. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 12
- ⑨ 山名麻衣, 白石裕一, 山端志保, 上島大輝, 吉田詳啓, 的場聖明, 三上靖夫. 腎移植患者における腎臓リハビリテーションの取り組み. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑩ 今城恭祐, 西郊靖子, 寺村健三, 幸田 剣, 三上靖夫. 座位腕振り足踏み運動はサイクルエルゴメーターによるCPXの代用手段となるか?. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑪ 松尾祐香, 奥田求己, 清水直人, 久保秀一, 櫻井桃子, 大橋鈴世, 三上靖夫. 歩行訓練支援ロボットでの歩行練習で動作解析を併用した慢性期脳卒中患者1症例. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑫ 藤原颯太, 奥田求己, 垣田真里, 沢田光思郎, 近藤正樹, 三上靖夫. 能動的な感覚識別訓練によって左下肢の疼痛が改善した慢性期脳卒中の1症例. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑬ 山口正喜, 瀬尾和弥, 久保秀一, 井上敦夫, 石田雅史, 大橋鈴世, 三上靖夫. 変形性股関節症患者の歩行分析ー大殿筋歩行様の荷重応答期の股関節伸展モーメントに着目してー. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 13
- ⑭ 三戸岡奈津実, 沢田光思郎, 中西雄紀, 岩崎夕貴, 法貴駿介, 菱川法和, 三上靖夫. 入院下の集中訓練によって歩行能力が向上した小脳性運動失調の患児2例. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 14
- ⑮ 芳野宏貴, 西郊靖子, 垣田真里, 岩本一秀, 三上靖夫. 回復期病棟における大腿骨近位端骨折患者の転機による体成分分析装置データの評価分析. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 14
- ⑯ Shinjo H, Sawada K, Ohashi S, Hishikawa N, Matoba S, Mikami Y. Movement in Daily Life as Key to Longevity: The Case of Kyotango. The 1st World Longevity Summit in Kyotango Kyotango, Japan, 2025. 6. 17

- ⑰ Hishikawa N, Toyama S, Ohashi S, Sawada K, Mikami Y. Diurnal patterns of sedentary behavior in older patients with rheumatoid arthritis: A cross-sectional comparison with community-dwelling older adults. 27rd Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR2025), Fukuoka, 2025.9.6
- ⑱ 梶健太郎, 菱川法和, 三戸岡奈津実, 岩崎夕貴, 前田博士, 沢田光思郎, 三上靖夫. 筋量の評価には体格に応じた補正法の選択が必要か? : 脳卒中後亜急性期の339例を対象とした妥当性の検討. 第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 旭川, 2025.10.23
- ⑲ 芳野宏貴, 木村洋輝, 岩本一秀, 西郊靖子, 垣田真里, 沢田光思郎, 三上靖夫. 回復期リハビリテーション病棟からADLに介助を要する状態で自宅へ退院した症例の後方視的検討. 第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 旭川, 2025.10.24
- ⑳ 大西美穂, 木村洋輝, 岩本一秀, 西郊靖子, 垣田真里, 沢田光思郎, 三上靖夫. 回復期リハビリテーション病棟において早期退院への取り組みを行った担がん患者2症例. 第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 旭川, 2025.10.24
- ㉑ 岩崎夕貴, 沢田光思郎, 菱川法和, 岸 雅之, 平野朝士, 前田博士, 三上靖夫. 療法士装着型スマートグラス歩行情報提示システムの効果: 脳卒中後亜急性期患者での予備的検討. 第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 旭川, 2025.10.25
- ㉒ Kubo M, Hishikawa N, Shinjyo H, Ohashi S, Sawada K, Mikami Y. Prevalence and characteristics of sarcopenic obesity in older adults in a longevity area of Japan: A retrospective cross-sectional study. 19th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM 2025), Marrakesh, Morocco, 2025.11.4
- ㉓ Hishikawa N, Toyama S, Kubo M, Ohashi S, Sawada K, Mikami Y. Therapeutic electrical stimulation and nutritional management for sarcopenia in with aptient with rheumatoid arthritis: A Case Report. 19th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM 2025), Marrakesh, Morocco, 2025.11.4
- ㉔ 松尾祐香, 瀬尾和弥, 久保秀一, 大橋鈴世, 生駒和也, 三上靖夫. Charcot-Marie-Tooth病患者の足部矯正術前後の歩行解析. 日本臨床バイオメカニクス学会第52回学術集会, 京都, 2025.11.7
- ㉕ 山口正喜, 瀬尾和弥, 久保秀一, 井上敦夫, 石田雅史, 大橋鈴世, 三上靖夫. 大殿筋歩行様の歩容を呈する変形性股関節症患者の体幹・下肢の運動学的特徴. 日本臨床バイオメカニクス学会第52回学術集会, 京都, 2025.11.8
- ㉖ 本田壮一, 八木秀介, 三上靖夫, 佐田政隆. 全国学会で学んだ心臓リハビリテーションを地域医療に応用するには. 日本心臓リハビリテーション学会 第9回四国支部地方会, 徳島, 2026.3.15
- ㉗ 本木涼介, 白石裕一, 栗本律子, 山端志保, 山名麻衣, 喜多郁果, 上島大輝, 的場聖明, 三上靖夫. 京都心不全ネットワークレジストリーから見える心不全入院の臨床像. 第90回日本循環器学会学術集会, 福岡, 2026.3.21

講演

- ① 三上靖夫. 骨粗鬆症性椎体骨折に対するリハビリテーション診療. 第366回京都整形外科医学会, 京都, 2025.2.22

- ② 三上靖夫. リハビリテーション医学から考える活動と痛み ～物理刺激をどう用いるか～. 第51回日本生体電気・物理刺激研究会, 京都, 2025. 3. 8
- ③ 菱川法和, 遠山将吾, 三上靖夫. 関節リウマチに対するリハビリテーション治療の過去・現在・未来. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 12
- ④ 櫻井桃子, 菱川法和, 三上靖夫. リハビリテーション医療における栄養管理には何が必要か? -白帯から黒帯を目指して-. 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2025. 6. 12
- ⑤ 三上靖夫. 高齢者の健康を支え暮らしに寄り添うために-京都での課題と取り組みについて- 第62回日本リハビリテーション医学会学術集会 京都 2025. 6. 14
- ⑥ 三上靖夫. 高齢者を支えるリハビリテーション医療と介護の連携. 徳島県医師会 令和7年度介護保険講演会, 徳島, 2025. 11. 17

研究助成

- ① 文部科学省科学研究費基盤研究 (C) 三上靖夫. 高齢者の身体活動が健康寿命に与える影響 -京丹後長寿コホート縦断研究から-. (25K14460)
- ② 厚生労働省厚生労働科学研究費 三上幸夫, 安保雅博, 久保俊一, 三上靖夫, 西村行秀, 大高洋平, 佐々木信幸, 百崎 良, 新見昌央, 沢田光思郎, 木下翔司, 西山一成, 吉田健太郎, 中山恭秀, 北村 新, 清水美帆, 塩田繁人, 吉川浩平, 浅枝諒, 秋田智之. 生活期リハビリテーションにおける介入手法の標準コードの開発研究. (23GA2001)

その他

2025年2月7, 8日 京都リハビリテーション医療・介護フォーラム2026を主催した。

※欄内におさまらない場合は枠を広げて記入のこと。

※大学ホームページ等において公表することとなるので、秘密情報については記載しないこと。